

南半球の2024/25年度のブルーベリー輸出量は28%増加

[FreshPlaza](#) 2025年5月27日

アイコンサルティング社が作成した[2025年国際ブルーベリー市場年鑑](#)によると、南半球は2024/25年度シーズンに、前のシーズンより28%多い43万6,431トンのブルーベリーを輸出した。

ペルーは生鮮ブルーベリーの最大の輸出国であり、前のシーズンより42%多い31万7,847トンを出した。チリは9万647トン(+5%)で2位にランクされた。

北米は南半球産ブルーベリーの最大の輸出先で、21万7,986トン(+26%)を輸入した。ヨーロッパの輸入量も26%増加し、15万1,653トンであった。

チリ輸出業者協会(ブランド名 Frutas de Chile)とチリ果実生産者連盟(Fedefruta)が資金を提供しているこの年鑑は、輸出と価格に関する最新のデータを提供する無料の出版物である。

価格は、天候に関連してペルーの供給量が減少した2023/24年度シーズンに上昇した後、2024/25年度シーズンには下方修正された。ペルー産の収穫が遅れたおかげで、メキシコ産は10月に米国市場で最高価格の28ドル/kgを達成した。チリ産は4ドル/kgで出荷を開始し、4月には12ドル/kgに上昇した。

ヨーロッパでは、ペルー産が9月と10月に最高の19.5ユーロ/kgを達成し、モロッコ産は3月に14.3ユーロ/kgをつけた。チリ産ブルーベリーは、1月に6ユーロ/kgから始まり、3月には12.3ユーロ/kgに上昇した。

ペルー、チリ、モロッコ、メキシコでは、競争力を高め、様々な市場の需要を満たすために、果実の硬さ、収穫後の貯蔵期間の長さ、風味の良さ及び収量の高さに焦点を当て、品種の置き換えが進んでいる。

出典: frutasdechile.cl

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

米国フロリダ州 果汁用に潜在的な代替オレンジ品種

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月28日

オレンジ果汁向けハムリン品種の潜在的な代替品としてドナルドソンオレンジが有望

米国農務省農業研究局(ARS)のフロリダ州フォートピアス(米国園芸研究所)の科学者たちは、ドナルドソンオレンジ品種がオレンジ果汁向けとして、カンキツグリーニング病で大きな被害を受けたハムリン品種を代替する可能性を評価している。

研究者達は、ハムリンオレンジとドナルドソンオレンジを使用したブレンドオレンジ果汁の違いを調べるため味覚テストを実施し、被験者達が2つの果汁の間の違いに気付くことを見出した。しかし、ARSの遺伝学研究者であるマット・マッティア氏は、「この違いは、若いハムリンの木から採った果実は酸酸性度が低いことで説明できるかもしれない」と述べた。

ドナルドソン品種は、ARSの科学者がオレンジ果汁の商業生産に使用できる可能性のあるオレンジを見つけるため柑橘類の果樹を評価していた時に発見された。この品種は、ARSが100年以上にわたり研究している品種コレクションから見出されたものである。記録によると、この木が最初に植えられたのは30年以上前、ハムリン品種が植えられた頃である。両品種は、12月～1月に成熟する早生品種である等の特徴が似ている。

マッティア氏は、ドナルドソン品種が優れた代替品である可能性を示唆しつつ、今後の研究ではドナルドソン品種が果汁用としてハムリン品種の代替となり得るかを検討するため、同じ樹齢の木から採れた果実を比較する必要があると言う。

ARSの研究者達は、研究協力者や業界パートナーと連携して、ほ場試験でドナルドソン品種のカンキツグリーニング病に対する耐性を評価することとしており、耐性の原因となり得る根本的な遺伝的メカニズムを研究することも計画している。